

■ 設定の趣旨

本単元は読書単元である。読書に関する最近の調査に目を向けると、文部科学省・国立教育政策研究所「OECD 生徒の学習到達度調査 2018 年調査（PISA2018）のポイント」において、日本の子どもは OECD 諸国の平均と比べて、フィクション（文学作品など）を読む生徒の割合が高く、ノンフィクションを読む割合が低いことが分かっている。つまり、読む文種に偏りがあるということである。

本単元で大切にしたいことの一つとしては、これまであまり読んでいない文種を読む経験を経て、豊かな読書生活の基盤を育てる、ということがある。もう一つ大切にしたいのは、自分の読書の仕方を振り返り見つめるということである。読書をするとき、自分は書き手のメッセージをどのように受け取っているのか（自分の読み）を見つめ直し、その後の読書に生かすことができるようにするのである。本単元では、文種としてはノンフィクションに入る、紀行文「森へ」を扱う。内容や表現の工夫に目を向けながらも、詳細な読解ではなく、書き手からのメッセージを受け取ることを重視する。そして、自分が受け取ったメッセージを他者と交流し合う中で、一人一人の読みの違いを感じられるようにし、「自分の読み」を大切にしていけることを目指す。

■ 指導目標

◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。

【知識及び技能】

○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

○自分の読書の傾向を把握し、ふれてこなかった文種を読む経験を通して、多様なものの見方や考えにふれ読書の意義を感じることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

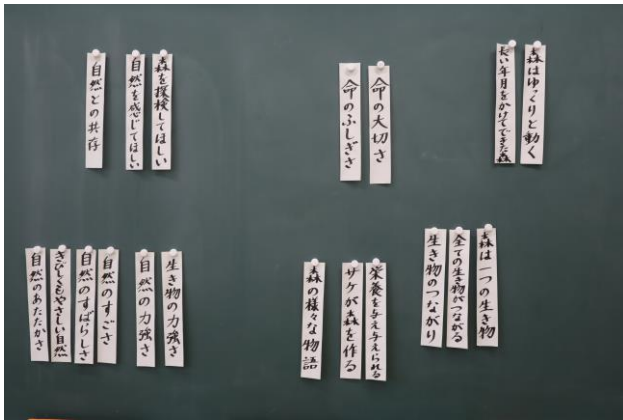
■ 指導計画 (5 時間)

	学習活動	指導上の留意点と評価規準・評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校6年間の読書生活について、図書館の貸出記録、最近の読書傾向、学習の中で扱った本などをもとに振り返る。 ・教科書 P79 の点について、友達と交流し、「自分は本からどんなメッセージを受け取ってきたのだろう。」という問題意識を生む。 ・「ブックトーク～私と本～」として、本を友達と紹介し合うことを通して「自分と本の関わりを明らかにする」という言語活動を設定する。 	<p>○あらかじめ学校図書館の貸出記録を用意したり、最近読んでいる本を持参するように子どもに伝えておいたりするとよい。【態度】授業観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動を通して、読書の役割についての理解を深めようとしているかを観察する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・本にはテーマ（福祉、平和、自然生命、友達関係、職業など）やジャンル（文学、ノンフィクション、事典など）があることを知り、これまでの読書生活で特に心に残っていた本を選び、その本のテーマやジャンルについて交流する。 ・これまでの読書生活で、あまり手に取ってこなかったテーマやジャンルの本について考え、これから読んでみたい本を選ぶ（並行読書）。 	<p>○実際の本を目にしながらかえることができるよう、家から本をもって来たり、学校図書館で授業をしたりするとよい。</p> <p>○紹介する本によっては、読み終わるのに時間がかかる場合もあるため、実施時期の工夫（長期休業を挟む等）、並行読書や朝読書を活用するとよい。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分が受け取ったメッセージを伝える」ブックトークの仕方を確かめる。 ・「森へ」のテーマやジャンルを確かめた上で読み、一人一人が受け取ったメッセージについて交流する。 ・交流を通して、テーマとメッセージのつながりに着目したり、一人一人受け取るメッセージの違いやつながりについて考えたりする。 	<p>【思・判・表】ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「森へ」を読み、自分の考えをまとめたり、他者の意見を踏まえて考えを広げたりしているかを見取る。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で選んだ本について、どんなメッセージを受け取ったかを考え、ブックトークの準備をする。 	<p>【思・判・表】ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選んだ本から受け取ったメッセージとその理由を記述できたかを確認する。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでブックトークをし、本を紹介し合う。 ・学習を振り返り、今後の自分と本の関わりについて考える。 	<p>【知・技】授業観察・ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブックトークを通して、読書が自分の考えを広げたり深めたりすることに役立つことを実感できたかを見取る。 <p>【態度】ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことをこれからの読書生活に生かそうとしている。

■ 指導のポイント（第3時の扱い）

学習活動	教師の働きかけ
<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動のゴールである「本を友達と紹介し合う」ということを想起し、「自分と本の関わりを明らかにする」という目的を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動のゴールを常に子どもたちと確認し、目的意識や相手意識を常に意識できるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>《言語活動》「ブックトーク ～私と本～」を開こう</p> </div>	
<ul style="list-style-type: none"> ・紀行文「森へ」をもとに、ブックトークの仕方を確かめたり、本から受け取るメッセージについて明らかにしたりする、という本時の学習内容を知る。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>《言語活動》「森へ」を読み、メッセージを受け取ろう</p> </div>	
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 P82 を参考にしながら、ブックトークの仕方について確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は、教科書 P82 を参考にしながらも、「本からメッセージを受け取る」ということに意識を向け、学習を進めていくことを確認する。
<p>【ブックトークの例】</p> <p>① 初め わたしは、「森へ」という本を紹介します。この本のテーマは「自然・生命」、ジャンルは「紀行文（ノンフィクション）」です。この本は、自分では決して味わえないような視点で自然の様子を描いています。</p> <p>②中 この本から私が受け取ったメッセージは、「〇〇」です。この本の魅力は、森や生き物の生命力を写し取った写真の力強さであり、文章にもその力強さが表現されています。私は、どのようなところからメッセージを受け取ったかというところ…。</p> <p>③終わり 私は、これまでこのようなジャンルの本を手にとったことはありませんでしたが、読んでみて、新たな視点をあたえられました。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・「森へ」を読み、自分が受け取ったメッセージを短冊に短くまとめて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる」ことにつながる活動だが、一読でまとめる難しさもあるため、個別の支援に当たる。

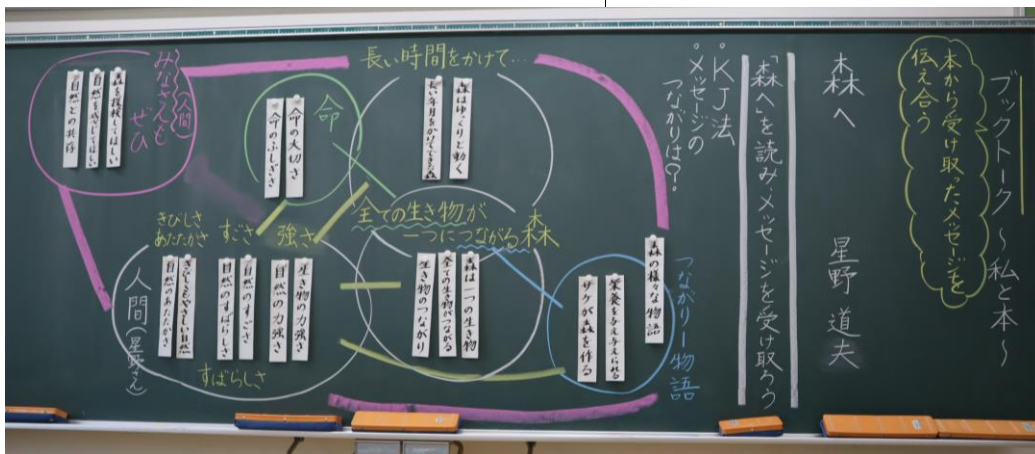
- 一人一人が書いた短冊を黒板に全て貼り出し、学級全体で相談しながら「KJ法」の要領でグループに分けていく。



- いくつかのグループに分類後、それぞれのグループに対して一人一人名前を付け、学級全体で整理していく。
- 名前を付けたグループ同士のつながりを、学級全体で考える。

- 一度分類しても、その後の活動で変更が必要ならば柔軟に対応する。また、グループに分けたものを掲示する場所も、整理していく段階で変更することも可とする。

- 分類・整理を通して、同一のテキストを読んでも、受け取るメッセージが少しずつ異なることを意識させる。
- 各グループのつながりを見いだすことを通して、自分が受け取ったメッセージの広がりや深まりを促す。



- 全体での交流を踏まえ、もう一度自分が受け取ったメッセージを捉え直し、ブックトークで話す内容をワークシートに簡単に組み立ててみる。
- 本時の学習を振り返る。

- 目標である「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、繰り返し本を読むことで自分の読みを広げ深めることにつながる時間」とするために、他者の意見で自分に生かせるものはないかと声かけをし、気付かせていく時間にする。
- 本時の学習を、言語活動のゴールにどのように生かすのかを確認する。

【想定される児童の受け取るメッセージ】

自然の力強さ

自然のすばらしさ

森はゆっくりと動く

生き物のつながり

弱肉強食

森の様々な物語

サケが作る

命の大切さ

命の不思議さ

生き物の力強さ

森を探検してほしい

自然を感じてほしい

森は一つの生き物

長い長い年月をかけてできた森

自然との共存

栄養を与え与えられる

自然のすごさ

自然のあたたかさ

全ての生き物がつながる

厳しくもやさしい自然